

# はにい

## 住みよいくらす

平成24年8月13日

5年1組。授業のタイトルは『住みよいくらしと環境』。

—今日は先生、新聞持ってきたんだ。これは運動会の日新聞だよ。ここにこういうのが載ってるの、知ってるかな？

「しってるー」「天気予報！」

—みんな、運動会の日、どういう天気だったか覚えてるかな？

「暑かった。」「うんうん。」「先生、そこに何度って書いてある？」

—えーとねえ、最高気温が25度。

「え、低い！」「高いよ、25度じゃあ。」「他のところは？」

—みんなどこが知りたい？

「大阪！」「青森！」「東京！」「東京だと一緒じゃん」「遠くがいいよ」「じゃ、北海道！」「沖縄！」

—じゃ、まず北海道を見てみましょうか。

自由な対話で、札幌と那覇が選ばれ、小田原との比較がされました。



教師は、子どもたちとの対話で授業を創っていました。気温を調べる都市をどこにするかだけでも、子どもたちとの対話を楽しんでいました。教師が勝手に決めないで、まずは問う。そして、受けとってもらえることがこの学級の安心感になっているのではないのでしょうか。

ところで、この先生は隣のクラスの社会科も指導しています。次の時間が丁度それだったので、見に行きました。

すると、なんと板書はさっきとまったく同じ！実は最初から北海道と沖縄を取り上げることは決まっていたのです。対話は自然に「できるだけ離れた都市を」ということになって、選ぶ都市に根拠が与えられる。そこには、考え抜かれた必然的な流れがあったのでしょうか。

また、この日の教材は、一枚の新聞でした。考えてみると、これでさえも教師が適当に持ってきたものではない。子どもたちが気温を体で覚えている日、そう、運動会の日新聞をわざわざ用意したのです。ここにも教師の細かい工夫があったのでした。

休み時間。一枚のプリントを囲んでいる子たちがいます。「お休み通信」？今日の学習内容や、明日の予定を書いて、みんなでさらに文を付け加えています。



今日は、算・国・理・社の4教科があつてめちゃくちゃたいへんだったよ。陽子(仮名)がいなくて、みんなさみしかったし、僕の前の席もし〜んとしていたし…。明日、元気に来てね。 5-1のみんなより

専用メールアドレス： [inochi4027@pref.kanagawa.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.jp)

ホームページ： <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420082/>